

# FIMBA マキシバスケットボール 規則 (日本語訳 20170720)

## 第1章

### 一般規則

**第1条** この規則はFIMBAが運営、後援する両支部のすべてのリーグ大会、地域、世界選手権に適用される。

**第2条** FIMBA 選手権の役員は

競技監督 Competition Director

テクニカルコーディネーター Technical Coordinator

懲戒委員会 Disciplinary Board からなる。

### 公用語

**第3条** 選手権の公用語はスペイン語と英語である。組織委員会は通訳を用意しなければならない。ロシア語とポルトガル語の通訳は必要に応じて用意する。

### リーグ大会と世界、地域選手権

**第4条** 世界、地域選手権の期間は最長10日間。チーム、選手、同伴者、参加者の受付と必須の技術会議 (Technical Congress)は金曜日の午前9時に始める。競技は土曜日の朝から、翌週の土曜日か日曜日の午後8時まで、8日間か9日間行う。選手権中は連続しない2日ないし3日、チームの休息日を設ける。

**第4条補足** リーグ大会の期間は6日間。チームと選手の受付は金曜日の午後12時から始める。その日は情報伝達のための技術会議を行う。試合は土曜日、開会式の後より、水曜日の午後6時まで5日間行う。

## 第2章

### チーム

#### 年齢カテゴリー

**第5条** マキシバスケットボールのリーグ、地域、世界選手権の年齢カテゴリーは以下の通り。

女子 30、35、40、45、50、55、60、65歳以上

男子 35、40、45、50、55、60、65、70、75歳以上

**第6条** 将来的には新しいカテゴリーが加わることもある。

#### 選手の年齢

**第7条** 前条に定めたカテゴリーへの参加は、次の規則を条件とする。

選手は選手権のある年中にカテゴリーの年齢になっていること。

年齢の高いカテゴリーでのプレーはできない。

70歳、75歳のカテゴリーでは、最低限10名の選手を満たすためのみ、1歳若い選手を2人まで含めることができる。ただし選手権受付期限の30日前までに自国の FIMBA 代表に許可を受けなければならない。

#### カテゴリー別、国とチームの数

**第8条** 一つのカテゴリーを設定する国の数は最低3。

**第9条** 一つのカテゴリーを設定するチーム数4に満たない場合、そのカテゴリーのチームは一つ下のカテゴリーのチームと対戦する。決勝では国の異なるチームが最低2ついれば、自分のカテゴリーのチーム内の1位を決める決勝戦を行う。そのチームは自分のカテゴリーのメダルをもらう。

## 国別、カテゴリー別、チーム数

**第10条** すべての国は1つのカテゴリーに1チーム以上登録することができる。チーム A、B などのように区別する。

登録するにはすべてのチームが自国の FIMBA 代表による承認が必要である。

**第10条補足** 地域選手権では他地域からのチームの参加が認められ、「アンバサダー」と呼ばれる。

アンバサダーチームの選手たちは、国は同じでも違っていてもよいが、同一地域とする。

同じ国から参加のアンバサダーチームは、その年のその地域の選手権に参加または登録していること。

国の違う選手がいるチームの場合、その選手はその年のその地域のチームに参加または登録していること。これらのチームは FIMBA チームと呼び、優勝には進めず、人数、カテゴリー、等は選手権のつど FIMBA が決定する。

## 国同士の決勝

**第11条** いかなる国も同一カテゴリー内で1位と2位の同時受賞はできない。一つの国から1つのカテゴリーに複数のチームが参加している場合、どの組から上がってきても、決勝戦には1チームしか残らないようにする。

## 競技システム

**第12条** 選手権の競技システムは、組分け(classification pools)である。これは抽選と公式日程によって決まる。

組分けを決めるための抽選と公式日程の発表前、宗教的理由、特殊事情、不可抗力により、選手権中に競技できない日がある場合、FIMBA 技術委員会が日程作成の際に知っているために、委員会に文書で通達すること。

## 第3章

### 参加者——選手と選手名簿

#### 参加者

**第13条** 参加者とは：選手、代表、コーチ、補欠(auxiliary)、レフリー、スコアキーパー、登録済み同伴者、大会主催者、スタッフ、FIMBA 役員等。

補欠(auxiliary)とは選手、コーチ、代表以外の公式チームメンバーをさす。

#### 参加証

**第14条** 組織委員会は全参加者に、組織委員長と FIMBA 会長および、または地域委員会会長の署名入り参加証を渡す。

#### チーム

**第15条** すべてのチームには代表としての責任がある。

**第16条** 削除

**第17条** チームは次の費用を負担する。

宿泊費と交通費

選手権登録料

選手権中の個人の出費と国内交通費

**第17条補足** 選手権に参加できなくなった場合、選手権開始45日前までに組織委員会に連絡すれば、登録費用の50%が返金される。それ以降は返金不可。支払い済み登録費用は選手権費用にあてられる。

## 登録カード

**第18条** 参加チームの各メンバーは個人登録カードを渡される。FIMBA ライセンスナンバー、個人情報、生年月日、国名が記載される。

## 選手

**第19条** 参加チームは出生地がその国の選手で構成される。自分の国籍と違う国の選手として参加する選手は、その国の1年以上の居住歴を FIMBA 代表に署名してもらって証明しなければならない。ある国の選手として参加すると、同種の次の選手権まで、最低2年間、他の国の選手として参加できない。

## 選手資格

**第20条** FIMBA リーグ選手権、地域、世界選手権で競技できる選手の資格

FIMBA ライセンスを持っていること。

第7条に従い、選手権年内にカテゴリーの年齢に達することを証明できること。

選手権までに自分のチームの選手名簿に登録してあること。

自国の FIMBA 代表に自分の健康適性を提示し、誓約書に署名してもらうこと。

## 代表

**第21条** 選手権役員にとって代表(delegate)はチームの代表であり、次の責任がある。

チームを登録すること。

期限までに各選手の FIMBA ライセンスナンバーを記載した正式選手名簿を提出し、すべての手続きを完了すること。

期限までに選手の変更や追加を行うこと。

FIMBA のすべての規則を完遂すること。

代表誓約書(Delegate Waiver Form) に署名すること。

## 選手名簿

**第22条** 選手名簿は、FIMBA ライセンスナンバーを記載して、登録期限までに組織委員会にオンラインか E メールで提出すること。FIMBA ライセンスがない選手がいる場合は、生年月日と有効なパスポート番号を報告し、そのコピーを持参しなければならない。

**第22条補足** 選手名簿には、カテゴリーに応じた最低人数の選手と、最大 12 人までの選手がいなければならない。合計で 15 人にするために 3 人の技術補欠(technical auxiliary)をつけてもよい。それとは別に最大 4 名まで予備の補欠を登録することができる。

30+、35+、40+、45+、50+のカテゴリーでは、チーム名簿に最低 8 人の選手がいなければならない。

55+、60+、65+、70+、75+のカテゴリーでは、チーム名簿に最低 10 人の選手がいなければならない

選手が 12 人未満のチームは、コーチ、アシスタント、または代表(delegate)を選手として含めることができる。

最初の試合の後、不可抗力により参加に必要な人数がいらない場合、FIBA のルールに従ってゲームに必要な最低限の人数でプレーすることができる。

1つのゲームでは 12 人の選手しかプレーできない。

## 1つ以上のカテゴリーまたはチームでプレーする

**第23条** 複数のカテゴリーまたはチームでプレーすることはできない。

## 予備の補欠

**第24条** 15人のチーム名簿に追加された者は、追加の補欠としての参加費用を支払わないかぎり、組織委員会にいかなる権利および/または義務を要求することはできない。

同じチーム内に最大4人の予備の補欠が許可される。

## 変更と追加

**第25条** チーム名簿の選手、監督、補欠の変更または追加は、選手権開始の7日前まで行うことができる。

## 年齢、身体適性、誓約書

**第26条** 登録承認の際、チーム代表は組織委員会に、a) FIMBA ライセンスを持たないメンバーのIDの写しと、b) チーム名簿の各人が署名した項誓約書を提出し、c) チームの各メンバーが身体的適性があることを確認する書式に署名すること。

## 参加資格

**第27条** 参加者は、組織委員会に、選手権に参加した期間を証明する書類を請求することができる。

## 試合用ジャージ

**第28条** 受付登録時に、各チーム代表は、2組の試合用ジャージの色(明色と暗色)を通知しなければならない。各試合の30分前に、チーム代表は、試合用ジャージの番号の載った12人の選手名簿を、TO席(the score table)に確認しなければならない。

**第29条** 試合用ジャージは、チームの国名および/または広告を表示できる。広告は事前にFIMBAに通知し承認されること。差別的な絵柄や倫理的に受け入れられない表現は認められない。すべてのジャージは、前面の上のほうにFIMBAのロゴをつけること。

## 第4章

### 選手権の技術会議と情報

**第30条** 組織委員会は、ゲームの開始前に、全チームの代表者の参加を必須とする技術会議を開催する。

すべての情報は、選手権の公式誌「Overtime」で、組織委員会によって事前に伝えられる。組織委員会は会議中、英語、ロシア語、ポルトガル語、スペイン語の翻訳者を必ず用意しなければならない。

技術会議では、以下の情報が通知される:

コート場所、ゲームのスケジュール、トーナメントとゲームのルール、審判とスコアキーパーの情報、祝賀会、式典、一般情報など  
選手権の会合スケジュール

会議ではスケジュールや試合や日付の変更はしない。

選手権中、追加の情報は、すべての参加チームの代表者に通知し、その受領を確認すること。

### マキシバスケットボールの共通重要事項

**第31条** 技術会議の後、FIMBA および/または地域委員会が、マキシバスケットボールの発展と改善のために共通重要事項とみなす事柄をすべて議題とすることができる。会合の時間と場所(選手権中)は相談して決める。その会合にはチーム代表、組織委員会、地域代表、FIMBA 代表、技術コーディネーター、競技責任者、FIMBA 当局が出席する。

## 第5章

### テクニカルコーディネーターと競技監督

**第32条** 選手権テクニカルコーディネーターは、FIMBA によって任命され、以下の役割をもつ。

テクニカルコミッショナーかつ選手権のコントローラー、  
レフリーとスコアキーパーのコーディネーター、  
選手権中のテクニカルチーフ、  
FIMBA レフリーの志願者の評価者、  
スコアシートとレフリーの報告を懲戒委員会に毎日送って、自動的出場停止のため報告なしで失格した選手を通知する。

彼らの任務と権利はその任命で始まり、最終報告書で終わる。

組織委員会は、援助と協力のために利用可能な現地語のバイリンガルの人を任命する。その人は、テクニカルコーディネーターと共に、技術会議および、テクニカルコーディネーターが出席しなければならない選手権中に予定されているその他のミーティングに参加する義務を負う。

テクニカルコーディネーターの任務と権利は次のとおり。

選手権の 90 日前に、選手権に最低限必要なレフリーの数とそのリスト(各レフリーのレベルと経験の記載あり)を主催者に要求する。彼らが十分でない場合に備えて、より多くのレフリーを調達する。選手権に最低限必要なスコアキーパーの数とそのリストを要求し、十分でない場合に備えてより多くのスコアキーパーを調達する。

選手権の 20 日前に、任命された FIMBA レフリーとビデオ会議を行って、ルールを再確認し、共同作業の準備をする。

選手権開始日前に、定められた会議で、選手権審判員と技術会議を行い、次のことを行う。

国内外の審判員を紹介し、

情報: a) 選手権ルール、b) 試合スケジュール、c) プレーシステム、d) 審判するための提案、  
e) 最終変更および情報など、を知らせる。

ゲームのレフリーを任命する。主審と二審、三審を任命する。任命された審判の不在やその他の問題に備えて代理審判も1人任命する。FIMBA レフリーは常に主審となる。審判技術が不足している審判を審判団から除外する。

開始前に 18 歳以上のスコアキーパーを任命し、彼らの責任感と知識をテストするために、ミーティングを行う。

進行中のスコアと各プレイヤーのスコア、さらに部分的な結果と最終的な結果をチェックして、すべてのスコアシートをコントロールし、承認する。

選手権開始 72 時間後に FIMBA 審判員希望者の評価を報告する。有望な適性を示した人は続行し、否認された人は審判を終え、宿泊その他の権利を失って、帰国する。

選手権の技術的向上の概要を、FIMBA 審判員希望者の適性評価と共に、FIMBA 当局に提出する。

主催者から集金し、FIMBA 審判に報酬を支払う。

選手権の競技監督にスコアシート、受け取った報告書、自動的出場停止のため報告なしで失格した選手の情報を送るか、または支援する。

**第33条** 選手権テクニカルコーディネーターによる審判の任命は、いかなる状況下でも反対、抗議してはならない。

**第34条** 組織委員会は、選手権のすべての試合をカバーするのに十分な数の国内レフェリーとスコアキーパーと、スーパーバイザーとして協力する十分なスタッフを有するものとする。レフェリーとスコアキーパーにはスキルがあること。全員 18 歳以上でなければならない。

必要に応じて、テクニカルコーディネーターは、

- a) 審判員、スコアキーパー、スーパーバイザーを除名し、
- b) 新しい審判員、スコアキーパーまたはスーパーバイザーを要請し任命する。

**第35条** 組織委員会が技術コーディネーターと協力するよう任命した者は、地元の審判団のレベルを知らせる。このレベルは、FIMBA 国際審判員と協力するのに適格であると、国内および国際機関によって正当に認定されたものでなければならない。

FIMBA 審判は、任命される資格を得るためには年間ライセンスを更新しなければならない。

## 競技監督

**第35条補足** 選手権の競技監督は FIMBA によって任命される。

- 1) 彼らの仕事はその任命の日から始まり、最終的な選手権の概要の送付で終わる。
- 2) 以下の権限と義務を負う:
  - a) 選手権の開始に先立って、各カテゴリーのチーム数に応じて、公式な抽選を行う。抽選の後、規則に従って各試合のタイムテーブルとコートの記載された選手権試合スケジュールを準備する。
  - b) 参加する技術会議において、
    - 選手権のルールを覚えておくこと。
    - 優れた規律のチームと選手を推薦すること。
    - ルールを明確化すること。
    - 次のことへ注意喚起すること。
      - 地元参加者または来訪者としての競技用ジャージ着用の義務、ゲーム開始時間の順守、各カテゴリーのカレンダーシステム、2回のテクニカルファールによる自動失格または出場停止など。
    - それに関する質問に答えること。
  - c) 選手権全試合の結果とチーム資格のリストを保存する。準決勝、決勝およびその他のゲームのために、予選を通過したチームが、FIMBA ルールに則り行う抽選に対して全責任を負う。
  - d) 選手権が終了すると、主催者と FIMBA 当局に、すべての試合の結果の概要、チームの最終順位、およびカテゴリー別の得点を提出する。

## 第 6 章

### 祝賀行事

#### 開会式

**第36条** 選手権初日は、開会式(参加必須)が行われる。式後に体育館または主催者が提案し FIMBA によって承認された場所で1試合を行なうことができる。

組織委員会とFIMBAは、選手権の関心に応じて他の種類の式をしてもよい。

**第37条** 各国チームの参加者は、

組織委員会が指名した人が持つ国旗と国名を先頭に、国名のアルファベット順に行進する。

ただし、開催国チームは最後尾とする。

自国の旗を先頭に、ステージの前または主催者が決定した場所で、1列に整列する。

そのあと開会式：

行進中、FIMBAの公式曲またはその他適切な曲をかける。

整列後、開催国の国歌をかける。

次に、組織委員会の会長は、2分以内で歓迎の言葉を述べる。

FIMBAの会長またはその代理人が、3分以内で挨拶する。

選手権が開催される地方自治体の長は、次のような言葉で選手権開始を正式に宣言する：

「第6回 FIMBA マキシバスケケットボール、ワールドリーグ松江2018の開会を宣言します。

〇〇〇知事/市長」

適切な音楽またはFIMBAの公式曲がかかり、チームがコートにいる場合には、最短の方法で入場順に退場する。

その後、選手権に応じたショーを行う。

開会式は合計45分以内で。

式後、その日に予定されている1試合をすることができる。

開会式またはゲームの後、ウェルカムパーティーを行う。

**ソーシャルイベント**

**第38条** 火曜日の夜予選終了前に、すべての選手権参加者、当局およびスタッフが参加できる無料の夕食と余興を行う。この間に次のホスト都市を発表する。

**代表者ディナー**

**第39条** 木曜日の夜、FIMBA代表、FIMBA当局およびスタッフ、組織委員会役員および特別ゲストのための正式な夕食会を行う。

**第7章**

**選手権の賞と終了**

**メダルとカップ**

**第40条** 各カテゴリーの上位4チームのメンバーは、ゲームの終了直後に次のようにメダルを受け取るものとする。

3位は銅メダル、4位はグレーのスチールメダル。

1位は金メダル、2位は銀メダル。

4チームのそれぞれに合計15個のメダルがいる。

各カテゴリーの1位チームはカップまたは賞を受け取る。

**選手権最後のゲームの時間**

**第41条** 最初のゲームは1日目の午前9時以降とし、最終試合は最終日の午後6時前に開始する。

**賞のプレゼンテーション**

**第42条** FIMBA当局と組織委員会は、4位までのメダルと1位のカップを授与する。

## 閉会の辞

第43条 組織委員会の会長は、表彰毎に参加者にお別れの挨拶を述べる。

## 第8章

### ゲーム

第44条 予選のスコアは以下の通り。

勝ちチーム: 2点

負けチーム: 1点

定刻に定められたコートに来なかったチームまたは試合を退場したチーム: 0点

第45条 各チームは、1日に1試合のみ行う。

第46条 どのチームも20時間以内に2試合連続でしたり、3日連続で試合することはできない。

第47条 地域および世界選手権中、最低4試合、最高7試合まで、リーグ大会では最高4試合まで。

男子60歳以上と女子50歳以上では、地域および世界選手権では、5試合以上不可。

第48条 試合は予選では1時間45分毎、決勝では2時間毎に組む。遅れに許容なし。定刻に現れないチームは負け。

### ゲームの中断

第49条 開始後または開始前に何らかの理由で中断した試合は、スケジュール調整してはならない。懲戒委員会は、制裁と結果を決定する。どちらのチームにも責任のない不可抗力の場合には、競技監督が、双方の代表者とキャプテン参加のもと作成した案によって解決する。試合開始後、不可抗力により試合が中断した場合、その時点までのスコアで決定する。

第50条 削除

第51条 一旦案が作成されると、第12条に従い、いかなる理由でも日付や試合の変更、試合予定の変更はできない。

### 争議

第52条 懲戒委員会が定める制裁と結果を尊重し、いかなる理由でも再試合はできない。

第53条 すべての予定された試合が行われるものとする。

### 決勝戦

第54条 各カテゴリーで決勝戦を行う。可能であれば同日に行う。

### スコアシステム

第55条 2チーム以上で同点の場合、順位は以下のように決める。

2チームの場合、相互の試合に勝ったチーム。

3チーム以上の場合、オリンピックの手順を適用する:

同チーム間で行われた試合の勝者。

それでも同点の場合は、組内の得点と失点の差

それでも同点の場合は、組内で、得点の多いチーム。

### トレーニング

第56条 組織委員会は、選手権前48時間以内、および選手権の自由時間中に、登録受付または情報センターに書面で正式に請求を提出したチームの練習場所と時間を決める。



## 第9章

### 競技規則

**第57条** 本書で変更が明示されていない競技規則は、FIBA が承認した有効な公式バスケットボール規則に準ずるものとする。

#### クォーター

**第58条** マキシバスケットボールの試合は、前半 20 分、後半 20 分で、それぞれ 10 分毎のクォーターに分けて行う。

#### クォーターごとの休み

**第59条** 第 1 クォーターと第 2 クォーターとの間、第 3 クォーターと第 4 クォーターの間には、必ず 2 分間の休憩を設ける。ハーフタイムには、必ず 5 から 10 分の休憩を設ける。

#### ゲームの再開

**第60条** 第 1 クォーターは、センターサークルでジャンプボールから始まる。以後のクォーターでは交互ボールルールに従う。

#### タイムアウト

**第61条** 各チームは、タイムアウトを前後半各 3 回、クォーター毎に最大 2 回要求することができる。オーバータイムには各チーム 1 回タイムアウトがとれる。

#### ファウル

**第62条** チームファウルは各クォーター 4 回までで、5 回目でフリースロー 2 回。  
チームファウルはクォーター毎で、TO 席より目に見える形で通知される。  
チームファウルは蓄積されずに各クォーターを開始する。

#### 競技ジャージの色

**第63条** 試合スケジュールの左側のチームは、明るい色のジャージを使用する。右側のチームは暗い色のジャージを使用する。

#### 年齢上位カテゴリーの特別ルール

**第64条** 男子 60 歳以上、女子 50 歳以上のカテゴリーではボール所持の特別ルールによって行う：  
ハーフコートまでボールを運ぶのは 10 秒以内で、ハーフコートをこえてからシュートまでは 24 秒以内で。  
また、このカテゴリーの試合は最小のコートで行う。

#### スコアシート

**第65条** スコアシートは組織委員会が発行する。チーム代表は試合の 30 分前までに最大 12 人の選手名とジャージ番号を提出する。選手はチーム名簿に登録しなければならない。  
管理ミスは組織委員会の責任であり、参加チームのではない。

#### スコアシートの署名

**第66条** チームのキャプテンは、デジタルでない場合には、試合開始前にスコアシートに署名する唯一の責任者とする。

## 第10章

### 懲戒委員会

第67条 FIMBA 選手権のための手続及び罰則規則に従って、選手権毎に 3 人のメンバーにより構成された懲戒委員会が任命される。組織委員会は、情報センターに事務所を設ける。また懲罰、出場停止、抗議、不服、懲戒委員会の決定を知らせる掲示板も設ける。同様の掲示板を選手権ウェブサイトにも設ける。

### 過去の懲戒処分

第68条 次の選手権まで継続する懲罰を受けた人物またはチームは、処分が完了するまで、いかなる方法でもプレー、参加することはできない。

### 自動的出場停止

第69条 試合中の失格選手は、次の試合は出場停止。報告書が懲戒委員会に送られた場合は、手続および罰則規則に従わなければならない。

### ダブルテクニカルファウル

第70条 2 回目のテクニカル・ファウルで罰せられた選手は失格となる。

## 第11章

第71条 すべてのチーム、選手、コーチ、補欠、選手権主催者および正式な参加者は、FIMBA のすべての規約を履行し、尊重しなければならない。

### 承認の権利

第72条 FIMBA は、チームまたはチームメンバーが、次のいずれかを行った場合、その国の FIMBA 代表の承認の有無にかかわらず、FIMBA が主催または後援する行事、選手権に登録することを承認、否認する権利を有する。

- a) FIMBA および/またはマキシバスケットボールの理念に反すること、
- b) マキシバスケットボールの選手権運営のために FIMBA が定めた規則を受け入れないこと、
- c) FIMBA が主催または後援する行事や選手権を妨害する行為を行うこと、
- d) FIMBA および/またはその役員のイメージを損なう行為を行うこと。

FIMBA 懲戒委員会は、以上の事柄が原因で出た苦情に対して、職権で仲裁、対処してもよい。これらの事柄ははっきり言葉にされた性質のものであること。

### イベントプロモーション

第73条 FIMBA は、FIMBA 選手権の宣伝のための宣伝のみ認める。選手権の宣伝にのみ、その名前とロゴの使用を許可する。FIMBA は、グラフィクス、テレビ放映、ソーシャルネットワーク、選手権、大会、会議、委員会などのプロモーションや広報によって周知される。FIMBA は、この規則に違反したり、認可を受けずにその名前またはロゴを使用して被害、損失を受けた場合、その者を訴えることができる。